

第6期美幌町総合計画

基本構想素案

平成27年8月

美幌町

もくじ

I	はじめに	1
1	策定の趣旨	1
2	総合計画の構成と期間	2
3	美幌町の概要	3
	(1) 立地、沿革、産業など	3
	(2) 人口の動向	4
4	美幌町を取り巻く環境	7
	(1) 人口減少の進展と超高齢社会の到来	7
	(2) 情報化、国際化の広がり	8
	(3) 「安全」「安心」を願う気持ちの高まり	8
	(4) 「地方自治」の更なる推進	9
5	町民の意向と評価	10
	(1) 住みごち	10
	(2) 定住の意向	10
	(3) 将来の美幌町に望む姿	11
6	美幌町の課題	12
	(1) 若い世代も住み良さを実感するまちづくり	12
	(2) 「住み良い＝住み続けたい」となるまちづくり	12
	(3) 町の特長を再認識し、より高めることで、まちの活力や誇りに結びつける	13
	(4) 長生きを楽しめるまちづくり	14
	(5) まちづくりを支える人を増やし、効果が発揮されるようにすることで、マンパワーを高める	14
	(6) 知恵を出し合って課題を解決していく力を高める	15
II	基本構想	16
1	将来像	16
2	人口の指標	17
3	基本目標	18
	(1) 基本目標1-人を創り、地域力を高めるまちづくり	19
	(2) 基本目標2-自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづくり	19
	(3) 基本目標3-まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	20
	(4) 基本目標4-住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり	20
	(5) 基本目標5-夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	21

I はじめに

1 策定の趣旨

美幌町では、これまで5期にわたって総合計画を策定し、まちづくりを進めてきました。

この間、増加していく人口に対応するなど、公共施設や生活基盤の整備を進め、昭和62年には町政執行100年を迎えました。平成の時代に入ると人口が減少傾向となり、それまでの基盤整備中心のまちづくりから、基盤の活用や人づくりを重視するまちづくりへと変わっていきました。

平成18年度から27年度までを期間とする「第5期美幌町総合計画」では、「夢はぐくむ緑の大地 びほろ ～長生きを楽しめるまちづくり～」を将来像に掲げ、まちづくりを進めてきました。

長年低迷が続いてきた経済は、全国的には徐々に回復の兆しが見えてきましたが、地方の自治体や住民が実感するには至っていません。また、平成23年に発生した東日本大震災など、甚大な被害がめだつ自然災害に対する不安が高まっており、「安全・安心なまちづくり」が全国的に重要な課題となっています。

平成26年には「まち・ひと・しごと創生法」が施行され、止まらない人口減少に歯止めをかけ、地域の活力を高めるべく、地方自治体に更なる取り組みが求められました。

このようななか、平成23年度の地方分権改革に伴う地方自治法の改正により、総合計画を策定するという法律上の義務はなくなりましたが、本町では、まちの憲法とも言われる「美幌町自治基本条例」で総合計画の策定を義務づけ、新たなまちづくり計画「第6期美幌町総合計画」を策定することといたしました。

「美幌町自治基本条例」は、町民主体のまちづくりを進めることを基本としており、今回この計画を策定するにあたり、町民主体の「『びほろ』みらいまちづくり会議」において、課題を整理し、方向性や取り組む内容を検討し、計画に位置づけるという、策定体制で進めました。

社会経済の変動や自然災害の発生など将来予測が難しい今日ですが、第5期美幌町総合計画の取り組みを検証し、美幌町の住み良さや魅力を今まで以上に高めていくまちづくりをめざし、この計画を策定しました。

第1期
昭和41年～ 昭和50年度

第2期
昭和51年～ 昭和60年度

第3期
昭和61年～ 平成7年度

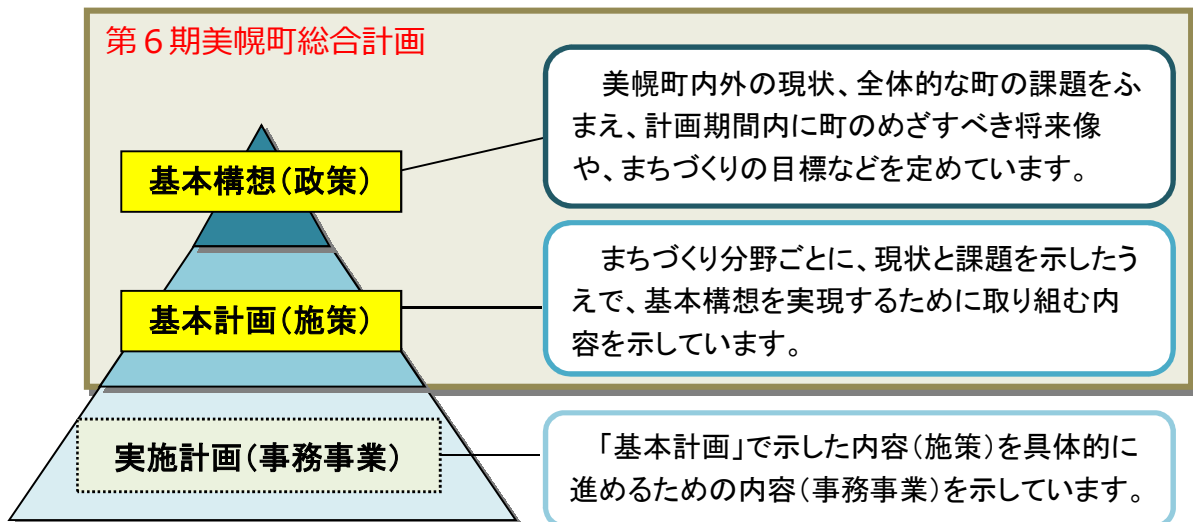
第4期
平成8年～ 平成17年度

第5期
平成18年～ 平成27年度

第6期 美幌町総合計画

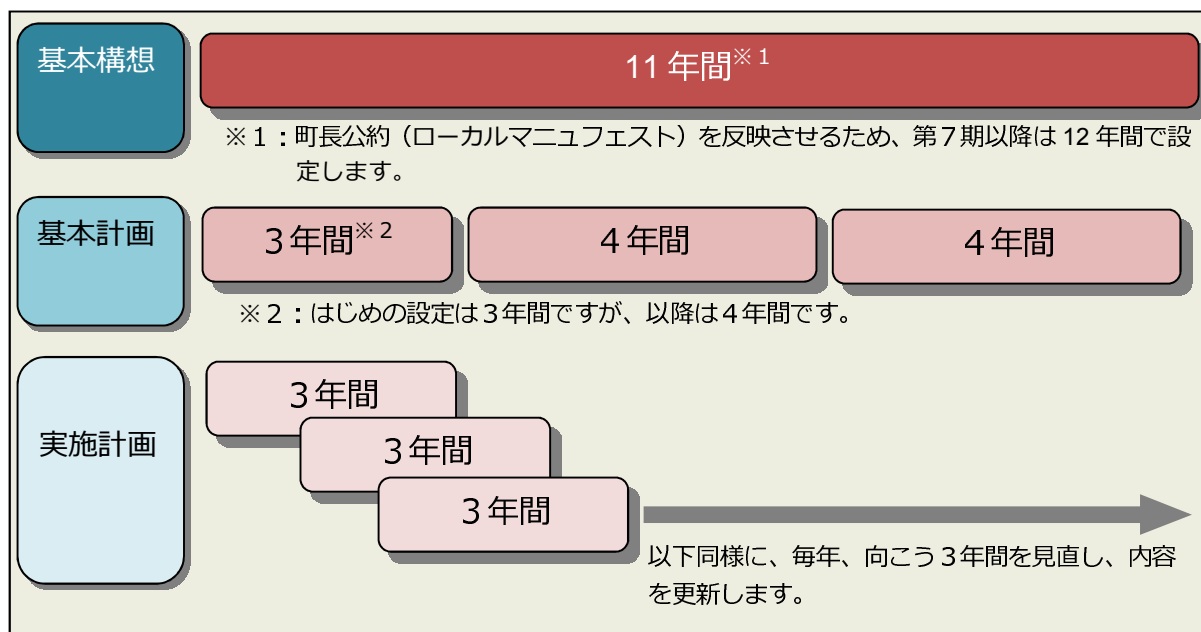
2 総合計画の構成と期間

この計画は「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3つから成る、ピラミッド型の構成になっています。それぞれの部分で示す内容は、次のとおりです。



また、「基本構想」「基本計画」「実施計画」それぞれの計画期間は、次のとおりです。

西暦	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
平成	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38



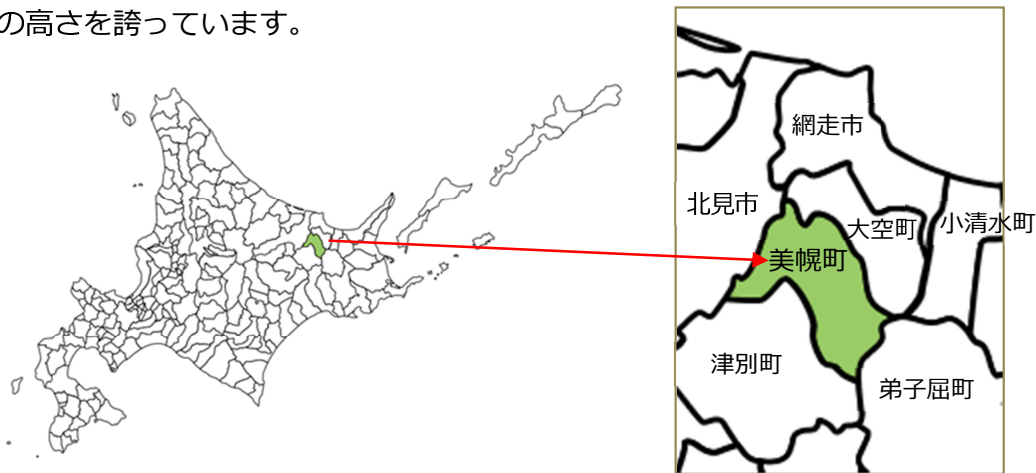
3 美幌町の概要

(1) 立地、沿革、産業など

美幌町は、北海道の東部、オホーツク管内のほぼ中央部に位置します。大空町、小清水町、北見市、津別町、釧路管内弟子屈町と隣接し、市街地には国道4本が縦横断しており、道東の交通の要衝とされています。

総面積は438.41km²で、東部に藻琴山（標高999.6メートル）をはじめ高い山並みがありますが、そのほかは標高200～300メートルの台地が西北に傾斜し、町の中央部を北流する河川の両岸には肥沃な平地が帯状にあります。

気象は、オホーツク海沿岸と北見内陸地帯の中間に位置することから、オホーツク海流、海霧、流氷の影響を受け、冬は-20℃前後、夏は30℃前後になることもあるなど、寒暖の差が大きくなっています。降水量は、年平均700ミリメートルと少なく、国内でも有数の日照率の高さを誇っています。



多くの清流が合流して水量が豊富なところを、アイヌ語で「ピ・ポロ＝水多く・大いなるところ」といい、これが町名の由来となりました。明治20年に美幌外5カ村戸長役場が設置され、大正4年に2級村制を施行し、美幌村となりました。さらに、同8年に津別村を分村し、同12年に美幌町となりました。

主な産業は農業で、1万ヘクタールを超える耕地があり、小麦、てん菜、馬鈴しょ、玉ねぎなどが主に生産され、これらの農産物を原料とする加工業も多くあります。森林は、行政区域面積の62%にあたる約2万7千ヘクタールを占めており、人工林のうち約79%がカラマツとなっています。有数の森林資源を地域の活性化に役立てようと、世界基準であるFSC®森林認証を取得し、木材の高付加価値化、ブランド化を図っています。

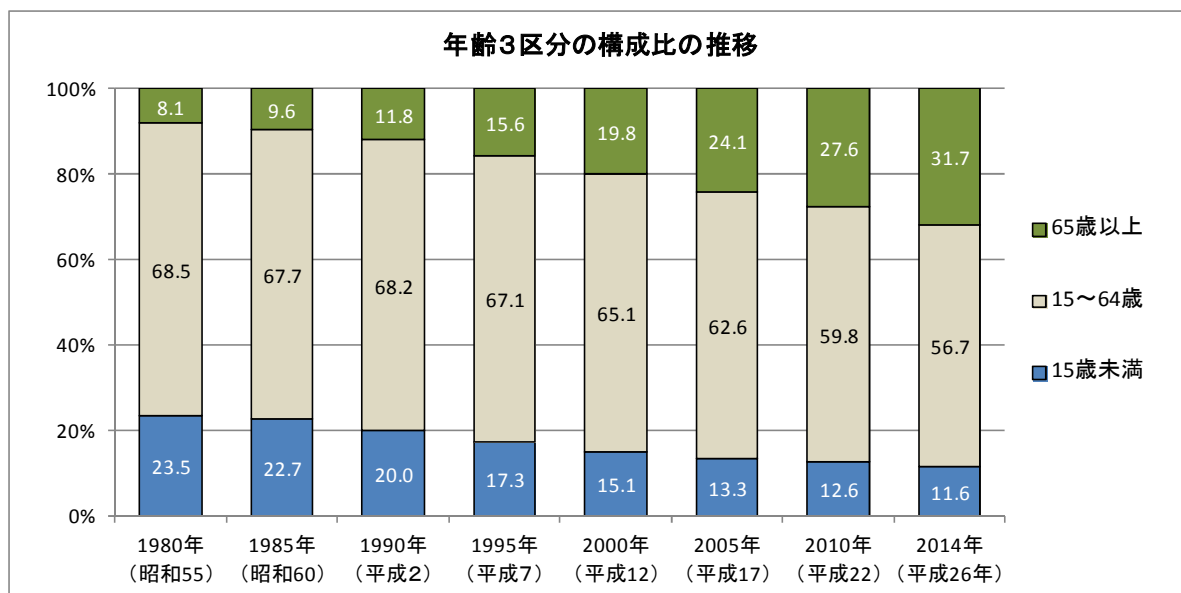
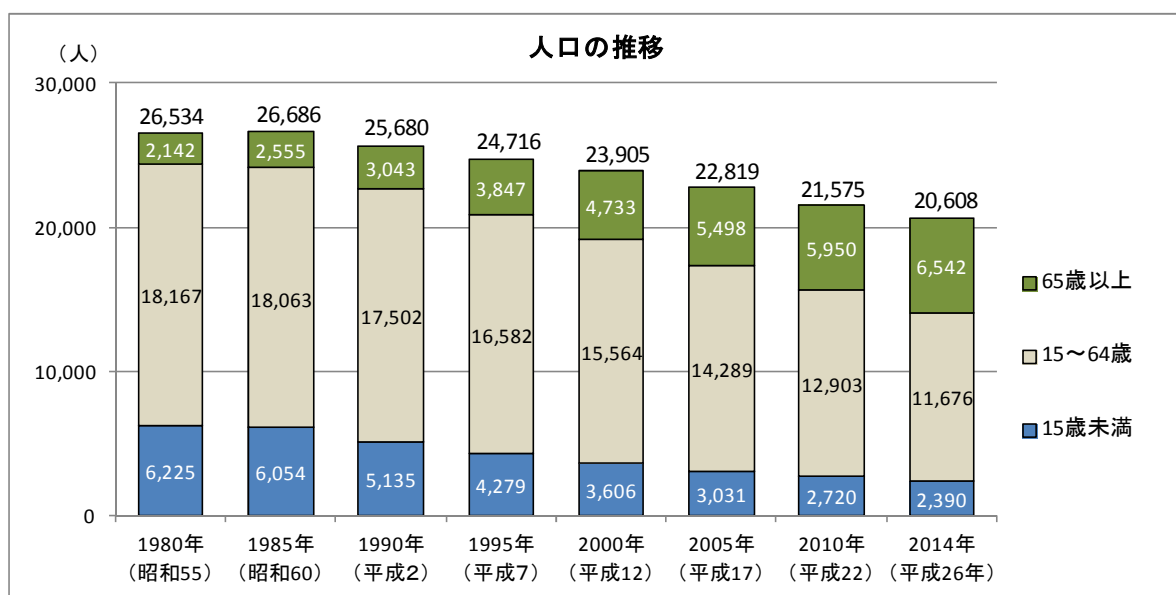
また、美幌町には、海軍航空隊時代からの歴史がある陸上自衛隊美幌駐屯地が存置し、災害派遣活動などにより地域と密接な関係を築いております。

女満別空港が近く、石北本線や国道4路線、道道6路線が通る交通の要衝であるため、道東観光の玄関口にもなっています。

(2) 人口の動向

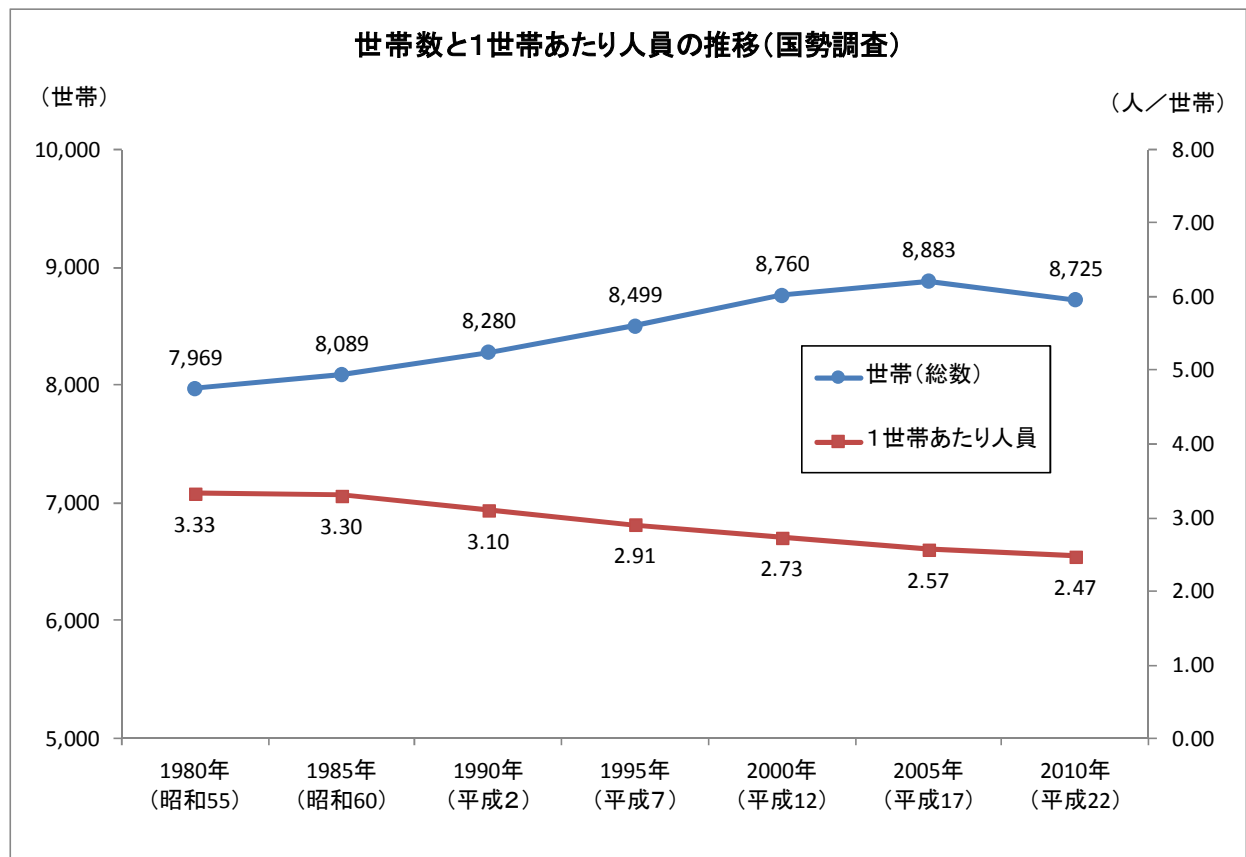
人口は、昭和 39 年の 28,479 人を最高に緩やかな減少傾向となり、平成 27 年 3 月末には、20,608 人になっています。

年齢別の人口比率をみると、高齢者の比率が増えており、昭和 55 年には 8.1%でしたが平成 22 年には 27.6%と増加しています。一方、若年者人口比率は、昭和 55 年の 23.5%から平成 22 年には 12.6%と減少しています。



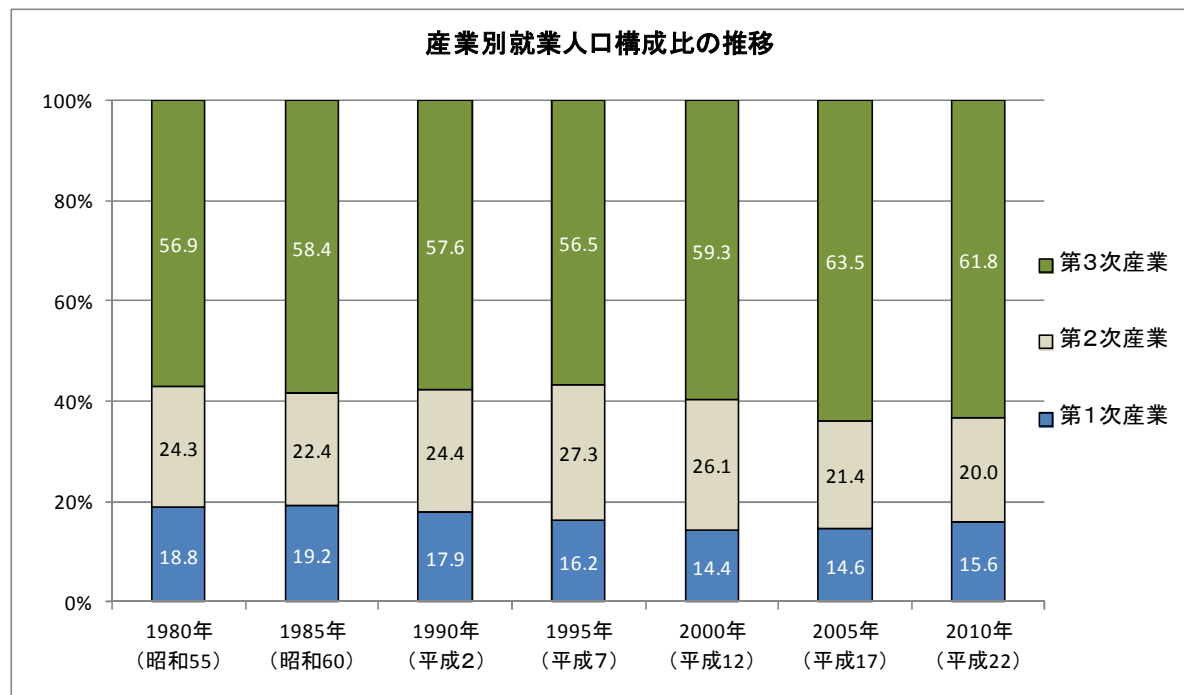
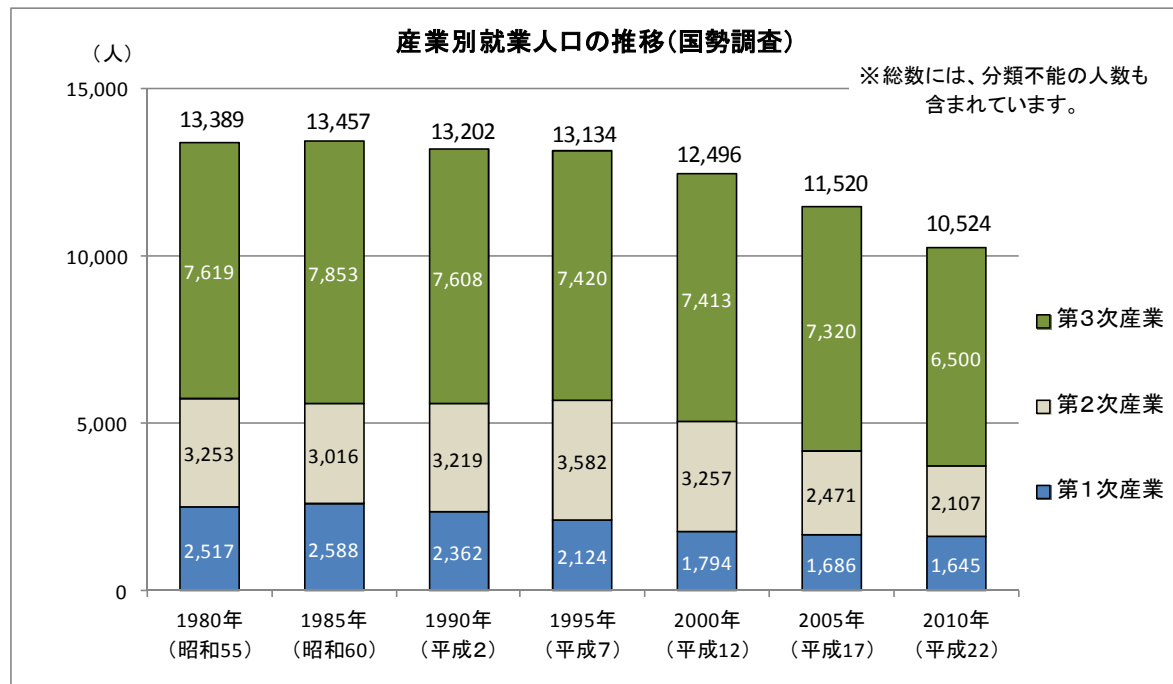
※上の2つのグラフの数値は、平成 26 年のみ住民基本台帳（平成 27 年 3 月末現在）、その他は国勢調査の数値です。

世帯数については、核家族化の進展もあり、人口が減少傾向になった後もしばらく横ばいの状況が続いていましたが、平成 17 年の 8,883 世帯をピークに減少し始め、平成 22 年は 8,725 世帯となりました。1 世帯あたり人員は減少傾向が続いており、平成 22 年は 2.47 人となっています。



就業人口については、総人口と同じく、昭和 60 年をピークに減少しており、平成 22 年は、総数が 10,524 人となっています。

産業別の就業人口の構成比率については、長期的な傾向でみると、第 1 次産業の比率が減少し、第 3 次産業の比率が増加しています。



4 美幌町を取り巻く環境

美幌町を取り巻く国内外の現状と、本町のまちづくりを考えるうえで関連する課題をテーマごとにまとめると、次のとおりです。

(1) 人口減少の進展と超高齢社会の到来

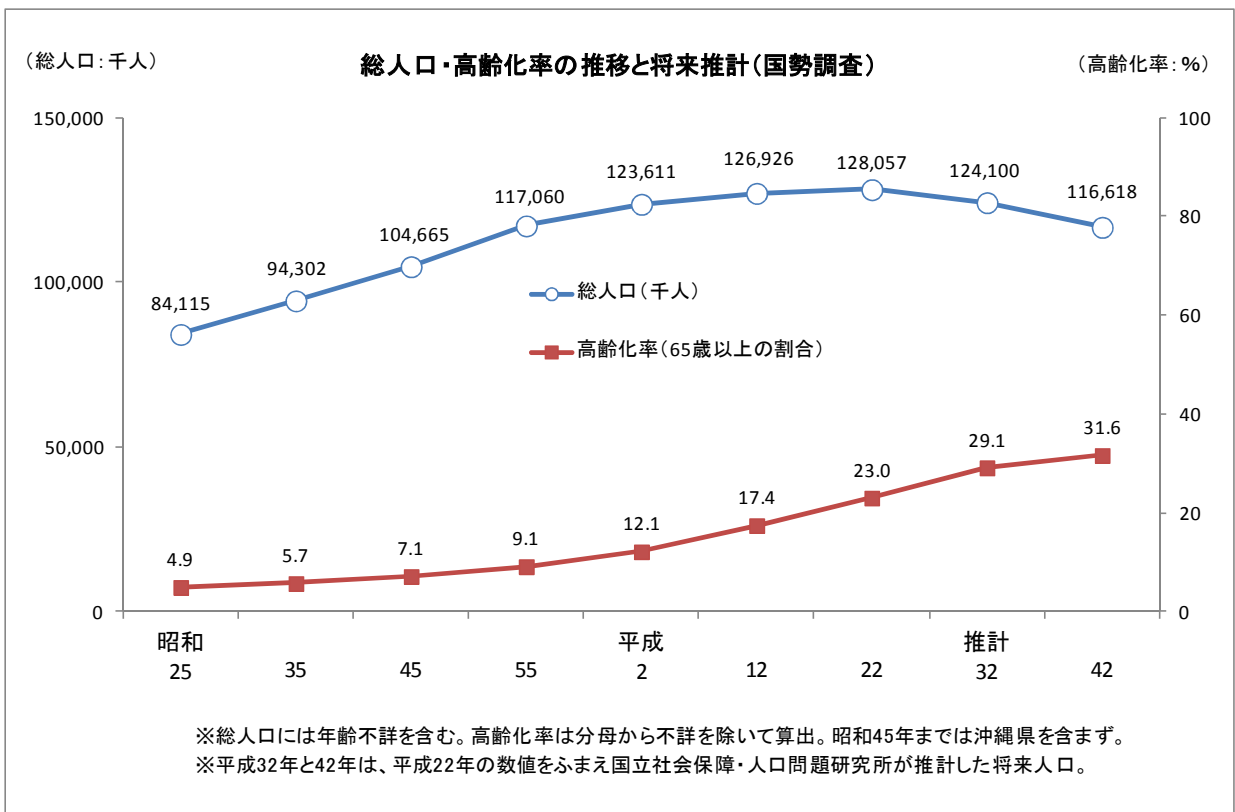
現状

世界の人口が増加を続け 70 億人を超えるなか、日本は人口減少社会を迎えました。平成 22 年（2010 年）の 1 億 2,800 万人余をピークに減少しはじめ、今後もこの傾向は進むと予測されています。

年齢別の人口構成をみると、高齢人口が増加しており、世界に先駆けて「超高齢社会」に突入したとされています。生産人口が減る一方、社会保障費は増大し、労働力の不足や財政の悪化が、日本の深刻な課題となっています。また、人口が少ない集落などでは地域の活動を支えてきた人がいなくなり、コミュニティ活動が立ちゆかない状況もみられます。

課題

このようななか、人口減少に歯止めをかけるため、国は平成 26 年に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、「45 年後の 2060 年に、1 億人程度の人口を確保する」ことを目的とした取り組みを始めました。東京圏への人口集中を是正し、地方の過疎化を抑制することも目的とされており、特に、地方自治体には出生率や人口の増加につながる具体的な取り組みが求められています。



(2) 情報化、国際化の広がり

現状

インターネットや携帯電話などの ICT (Information and Communication Technology : 情報通信技術) の普及が世界中で進んでいます。個々の情報収集・通信手段のほか、企業や行政でもさまざまな分野で活用が広がっています。

また、情報網と同様に、交通網の拡大、高速化も進み、人やもの、お金、情報などが国境を越えて活発に動き回っており、都市部に限らず、日本各地で外国人を見かけることも多くなり、交流機会が増えています。

課題

インターネットの普及は、日常生活や社会経済を便利で豊かにする一方、トラブルや犯罪も増えており、悪用への対応が求められています。

また、まちづくり分野では、観光や福祉、防災をはじめさまざまな分野で、ICT を効果的に活用していくことが期待されており、使いこなせる環境や知識の普及、人材の育成などが課題となっています。

さらに、国際化によって、日本と海外を行き交う交流人口が拡大しており、訪日外国人の受入環境の整備や国際化に対応できる教育などが、全国的に求められています。

(3) 「安全」「安心」を願う気持ちの高まり

現状

経済面や老後の生活などに不安を感じる人も増えており、「安全・安心」を求める声やその内容は拡大しています。特に近年は、東日本大震災や異常気象による災害の発生により、防災面や環境面での安全・安心を求める声が高まっています。

課題

「安全・安心」は全国的にまちづくりのキーワードとなっていますが、住民の願う「安全・安心」は立場や環境などによって異なるため、これまで以上に個別のニーズを把握し、細やかに対応していくことが課題となっています。

また、北海道は「安全・安心」な食料生産の場であることに加えて、地震や自然災害が少ないという点で、移住や企業立地の場として関心が高まっており、「安全・安心」な地域であることをアピールポイントに活かすことも求められています。

(4) 「地方自治」の更なる推進

現状

地方分権一括法により、地域の実情に沿った行政運営が求められる一方で、全国的に合併が推進され、平成 11 年には 3,000 以上あった市町村数は、平成 26 年現在、1,700 余となりました。また、簡素で効率的な行財政システムを進めるため、地方自治法の改正により、複数の自治体が共同で事業をしやすくなるなど、自治体相互の連携による課題解決がより一層求められています。さらに、住民、議会、行政の役割分担や住民参加のしくみなど、住民自治を進めていくうえで必要なことを条例によって明確に位置づける自治体も増えてきております。

課題

地域が自らの責任と判断でまちづくりを進めていくことが求められていますが、それらを進める職員体制や財源が十分に確保できないという課題もあります。また、地域の実情に沿ったまちづくりを進めるためには、より多くの地域住民の声を聞き、反映させていくことが必要です。このようなことから、地方自治を推進していくうえで、地域住民との連携が、今まで以上に重要になっています。

さらに、住民自治を推進するうえで、自治会や町内会といった組織の力は大きいですが、過疎化や高齢化により活動が低迷する傾向が全国で見られます。より積極的かつ幅広く参加を促すとともに、効率的に活動できる組織づくりを進めていくことが課題となっています。

5 町民の意向と評価

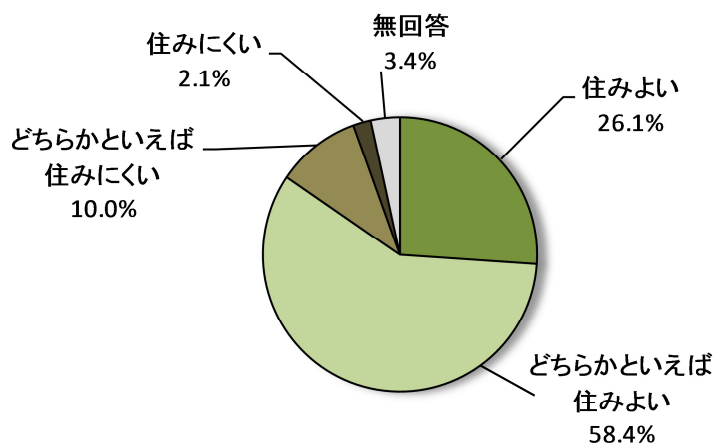
この計画を策定するにあたって、美幌町に住む 18 歳以上の方や町内の中学生、高校生の方を対象にアンケートを実施したほか、小学生、子育てサークル、老人憩の家、自衛隊美幌駐屯地に出向き意見を伺いました。

このうち町民アンケートについては、平成 26 年 7 月に実施し、813 人の方から回答を頂きました。この結果から、美幌町のまちづくりへの評価やこれからのまちづくりへの意向についての主な結果は、次のとおりです。

(1) 住みごち

美幌町の現在の住みごちについて尋ねたところ、「住みよい」が 26.1%、「どちらかといえば住みよい」が 58.4%を占めました。この 2 つの回答を合計すると 84.5%となり、約 85%が住みごちを肯定的に評価しているといえます。

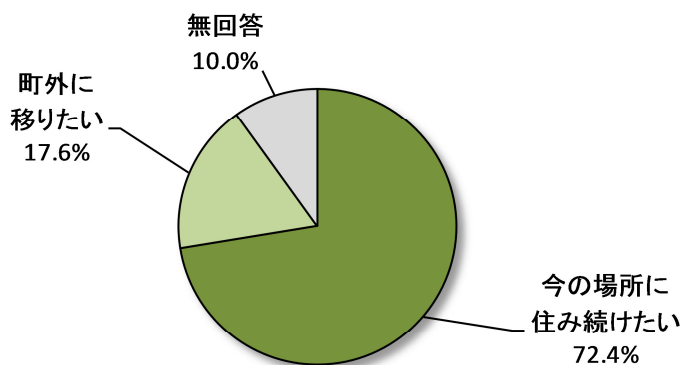
現在の美幌町の住みごち



(2) 定住の意向

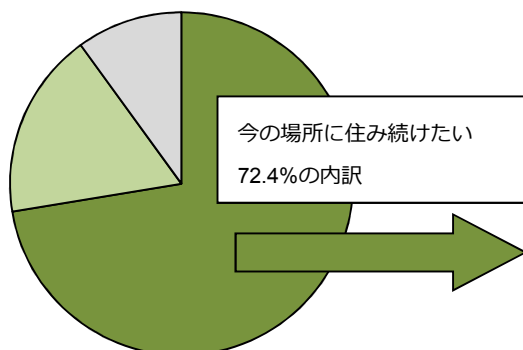
これからも美幌町に住み続けたいか尋ねたところ、「今の場所（町内）に住み続けたい」が 72.4%、「町外に移りたい」が 17.6%を占めました。約 70%が町内に定住意向を持っているといえます。

美幌町に住み続けたいか

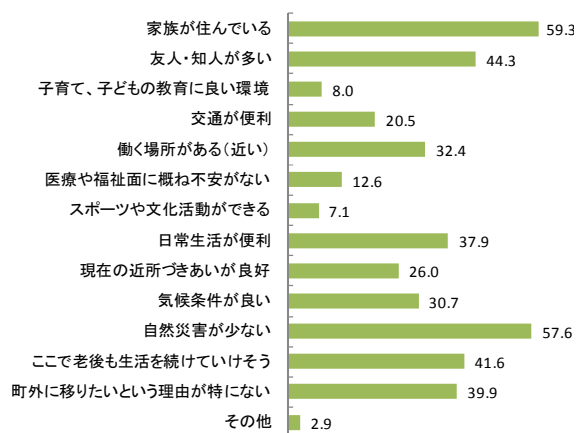


また、「今の場所に住み続けたい」を選んだ理由のうち、美幌町の特徴的なものとしては、「自然災害が少ない」や「日常生活が便利」という回答が多くあげられました。

美幌町に住み続けたいか

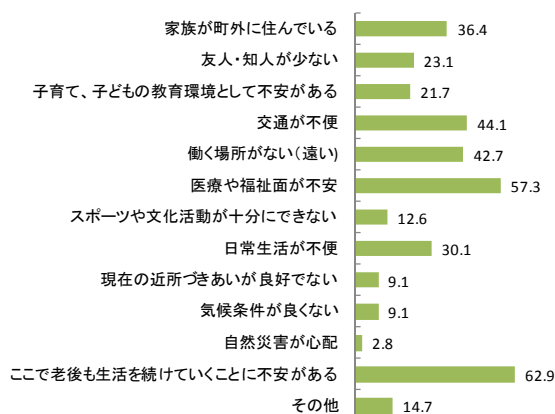


町内に住み続けたい理由(すべて選択)

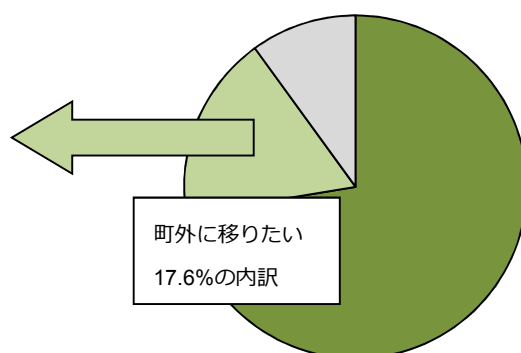


一方、「町外に移りたい理由」を選んだ理由については、「医療や福祉面が不安」や「働く場所がない(遠い)」などが多くあげられました。

町外に移りたい理由(すべて選択)



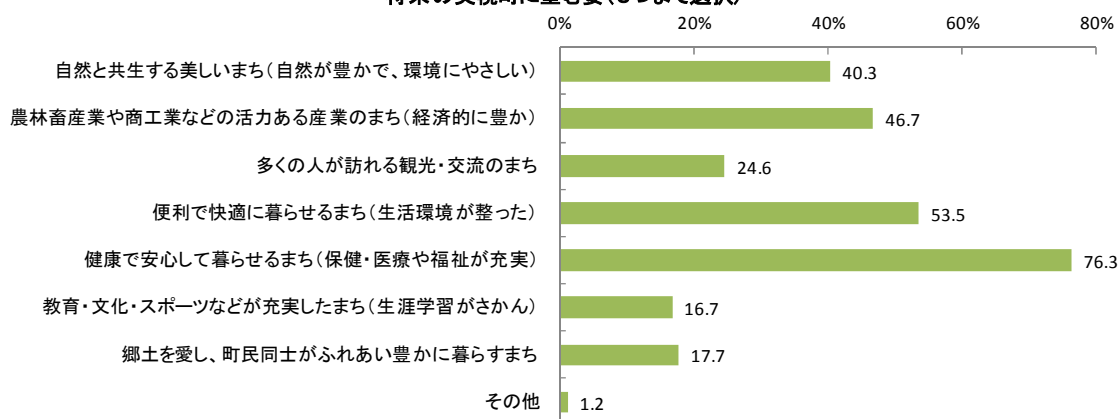
美幌町に住み続けたいか



(3) 将来の美幌町に望む姿

将来の美幌町に望む姿について尋ねたところ、「健康で安心して暮らせるまち(保健・医療や福祉が充実したまち)」が 76.3%と最も多く回答されました。

将来の美幌町に望む姿(3つまで選択)



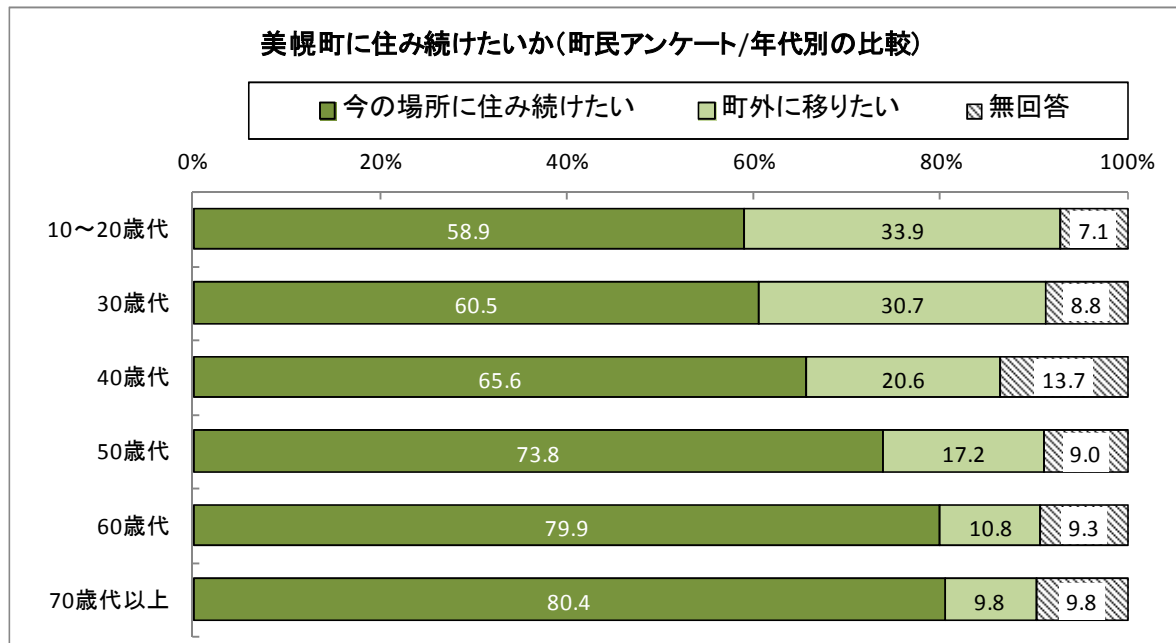
6 美幌町の課題

(1) 若い世代も住み良さを実感するまちづくり

町民アンケートで美幌町への定住意向を尋ねると、年代が高まるほど「住み続けたい」という回答率が高く、若い世代は比較的低い状況です。

また、若い世代は、町外に移りたい理由として、他の年代に比べて「子育て、子どもの教育環境が不安」「友人・知人が少ない」という回答が多く、具体的には、子どもを産む環境や子どもを遊ばせる場所への不満、仕事と子育ての両立への支援や経済的な負担軽減をしてほしいという声、若い世代が集まる場や機会が少ないという声などがあります。

子育て支援に限らず、若い世代が美幌町での生活を楽しめる環境をより一体的に向上させ、美幌町に住み続けたい、住みたいと思う若い世代を今よりも増やしていく必要があります。



(2) 「住み良い＝住み続けたい」となるまちづくり

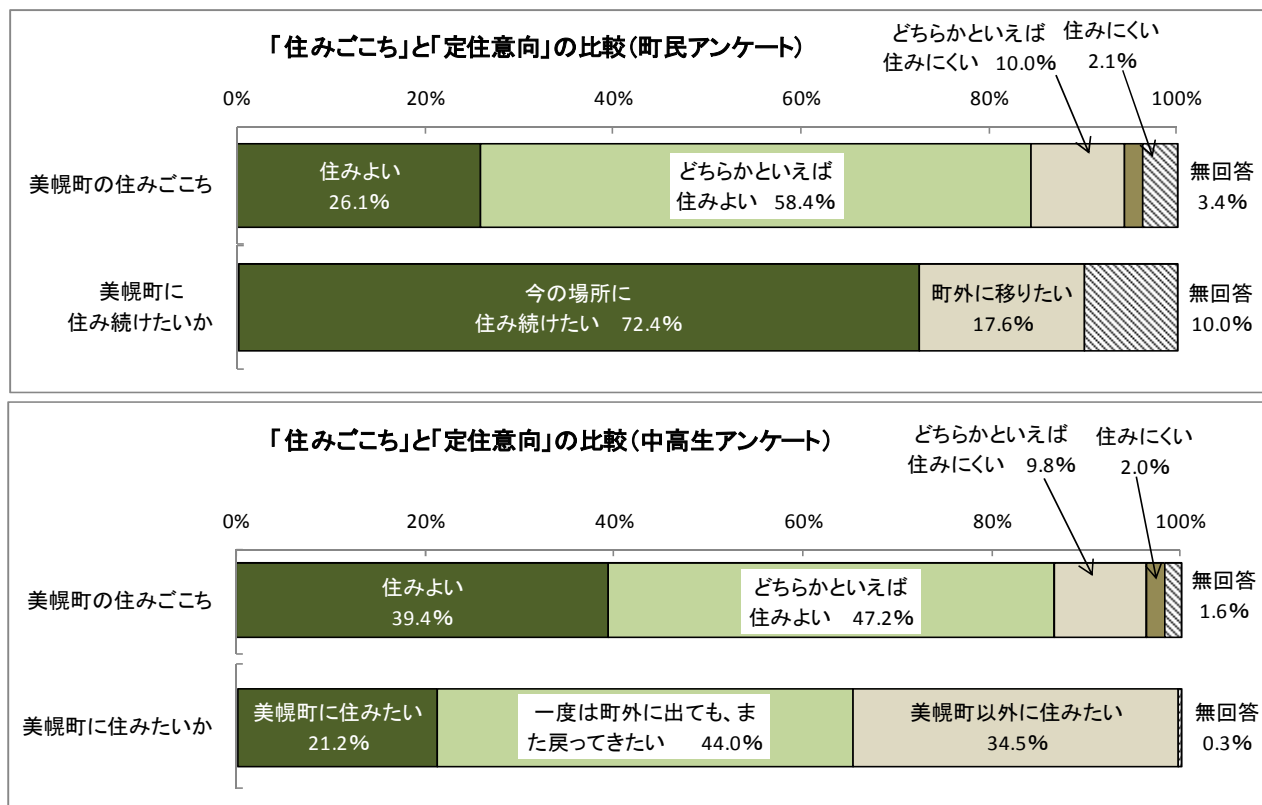
町民アンケートで美幌町の住みごちを尋ねると、84.5%は「住みよい」または「どちらかといえば住みよい」のいずれかを回答しています。中高生アンケートでも同様に尋ねると、86.6%を占め、大人より高くなっています。

この結果を、(1)で示した定住意向と比較すると、「美幌町は住みよい（どちらかといえば住みよい）」という回答率よりも「美幌町に住み続けたい」という回答率は低く、その差は大人で 12.1 ポイントですが、中高生は 21.4 ポイントの差があり、大人より差が大きくなっています。

8割以上が「住みよい」と評価する現状は決して悪い状況ではありませんが、住みよいと思いながらも住み続けたい気持ちに至っていない町民がいることも事実です。住み良さの評

価値が定住意向につながり、その結果、人口の流出がくい止められ、子どもから大人まで住み続けたいと思う人が増えるまちづくりが必要です。

また、中高生アンケートで町外に移りたい理由を尋ねると、「買い物や遊ぶ場が少ない」に続いて「自分に合う仕事がない」という回答が多くなっています。働く場を増やすことについては町民からも多くの声があがっており、若い世代の転出を抑えるためにも重要であるといえます。美幌町内で働きたい人が働ける環境、就きたい仕事に就ける環境などを充実させていくことが必要です。



(3) 町の特長を再認識し、より高めることで、まちの活力や誇りに結びつける

「美幌町の良さ」については、空港が近く市街地に国道が4本通り道東の交通の要衝となっていること、身近に自然が多いこと、農作物をはじめ食べ物が美味しいこと、生活しやすいコンパクトシティであることなどが評価されています。また、町民アンケートでは約6割が、自然災害が少ないことを町内に住み続けたい理由としてあげているほか、町内に陸上自衛隊の駐屯地があることについても、災害時の対応や地域経済への影響、地域行事への協力などの面から、町の特長と捉えている町民も少なくありません。

一方で、これらの特長を活かすことによって経済効果が特に期待できる観光については、町内に訪れる場や宿泊できる場所が少なく、素通りされやすいことなどが指摘されています。また、食やイベントの魅力がある程度評価されながらも、食を活かした特産品開発や売り方の工夫、イベントPRの工夫などが求められています。すでにある地域の資源を積極的に魅力アップにつなげ、観光の滞在化を図っていくことが必要です。

また、地域の住民に向けて、まちの良さを改めて伝えることによって、美幌への誇りを高めていくことも大切です。地域や学校での活動、広報などを通じて、歴史や文化なども含め、美幌町の良さを町内外に発信し続けることが必要です。

(4) 長生きを楽しめるまちづくり

これまで美幌町では、保健、医療、福祉部門の連携により、「長生きを楽しめるまちづくり」を進めてきました。

特に、健康づくりについては、保健福祉総合センター「しゃきっとプラザ」を拠点に、性別や年代に応じた取り組みを進めてきました。その結果、町民アンケートでまちづくり分野ごとの「満足度」を尋ねると、保健・医療・福祉の分野で最も満足度が高かったのは「健康づくりや病気予防」であり、その考え方や取り組みへの理解は、徐々に浸透しつつあるといえます。

また、将来の町の姿として「健康で安心して暮らせるまち」を望む声が高く、引き続き取り組みが期待されているといえます。さらに、「自分にとっての豊かさ」について尋ねたところ、「心身の健康」が最も多く、世代を問わず、心身の健康が豊かさの象徴として重視されていることが分かります。

しかしながら、ひとり暮らしや単身世帯が増え、近所づきあいが希薄になってきている今日、どの世代も、なじみの関係が築きにくく、心身の健康づくりの仲間を持つことが難しい状況になっています。

これまでの取り組みに加えて、年代を超えて、生涯学習・スポーツや地域活動などで交流や仲間づくりができる機会を増やすなど、皆が誰かとつながりを持って、心身ともに長生きをみんなで楽しめるまちづくりを進め、心も身体も元気な人を増やしていくことが必要です。

(5) まちづくりを支える人を増やし、効果が発揮されるようにすることで、マンパワーを高める

美幌町では、スポーツや文化をはじめとした生涯学習に関する活動、高齢者の生活や子育てを支援する福祉活動、子どもや若い世代が参加する社会教育や体験活動などが、町民のボランティアにより支えられています。これらの活動は、子ども達の心身の成長や人づくりなどの面で重要な役割を担っています。

現在は活動を支える方々の理解と協力により、活発に行われていますが、若い世代が減っていくなか、人材が不足していくことが懸念されています。

一方、アンケートで参加したいまちづくり活動を尋ねると、福祉ボランティア活動を希望する60～70歳代の方や、小さな子どもと遊ぶなど子育て支援活動を希望する中高生が多くいることが分かりました。

中高生も含めより若い世代や元気な高齢者など、今は参加していない人達にも、積極的に声をかけ参加の輪を広げていくことが必要です。

さらに、各活動で連携できる場所は連携し、少ない人数で効率的に運営できる工夫や、活動の場となっている施設の利便性を高めるなど、活動を促進する推進体制や施設づくりも進めていくことも重要です。

（６）知恵を出し合って課題を解決していく力を高める

美幌町では、まちづくりに関する各種委員会など、多くの町民が参加し、運営していくことが望ましい組織において、構成・参加している人が重複している状況が見られます。

協働のまちづくりを進めていくには、町民と行政が連携することは重要ですが、官民間問わず町内にあるすべての組織の連携を強化していくことも重要です。

「自立と協働」を基本に、日頃から、町民と行政、各組織や団体などで情報の共有化を図り、知恵を出し合い、課題を解決していく場面が多くみられるまちにしていくことが必要です。

さらに、日頃、まちづくり活動になじみが薄かったり、積極的ではない人でも、美幌のまちづくりに関心を持ち、機会があれば意見を述べたいと思っている人も少なくありません。日頃の活動を通じて、また、インターネット等様々な手法を通じて、小さくても聞こえて来る声を大切にしていけることが重要です。

Ⅱ 基本構想

1 将来像

豊かな自然と大地に恵まれた美幌町は、農林業を軸に、交通の要衝という立地を活かしながら、また、自衛隊が駐屯するまちとしてこれまで発展してきました。

日本全体が人口減少時代を迎え、基盤整備中心のまちづくりから、人や環境をより重視したまちづくりが求められています。

美幌町は、先代から引き継いだ地域の資源や環境を大切にし、地域の力としていくとともに、人の輪や交流を今まで以上に大切にし、「人が育つ」「人が中心」のまちづくりを進めます。

そして、次世代・未来へと、地域の資源とともに人がつながり、夢が持てるまちをめざします。

さらに、「ひとがつながる、みらいへつなげる」まちづくりが美幌町の魅力となり、住んでいる人が誇れるまちになることをめざします。

このようなことから、第6期美幌町総合計画の将来像を、次のようにさだめます。

ひとがつながる、みらいへつなげる ここにしかないまち ひまろ

ひとがつながる : 人とのつながりを大事にする。人の輪を広げていく。連携を強化していく。

みらいへつなげる : 課題を解決しながら、次世代の子ども達に夢がもてる美幌町を継承する。
持続可能なまちづくりを進めていく。

ここにしかない : 美幌町の絶対的な魅力が光り、地域力が発揮されるまち。ここでしか味わえないことがある、ここが好き、ここが自慢、こんなすごい人がいる、と誇れるまち。

2 人口の指標

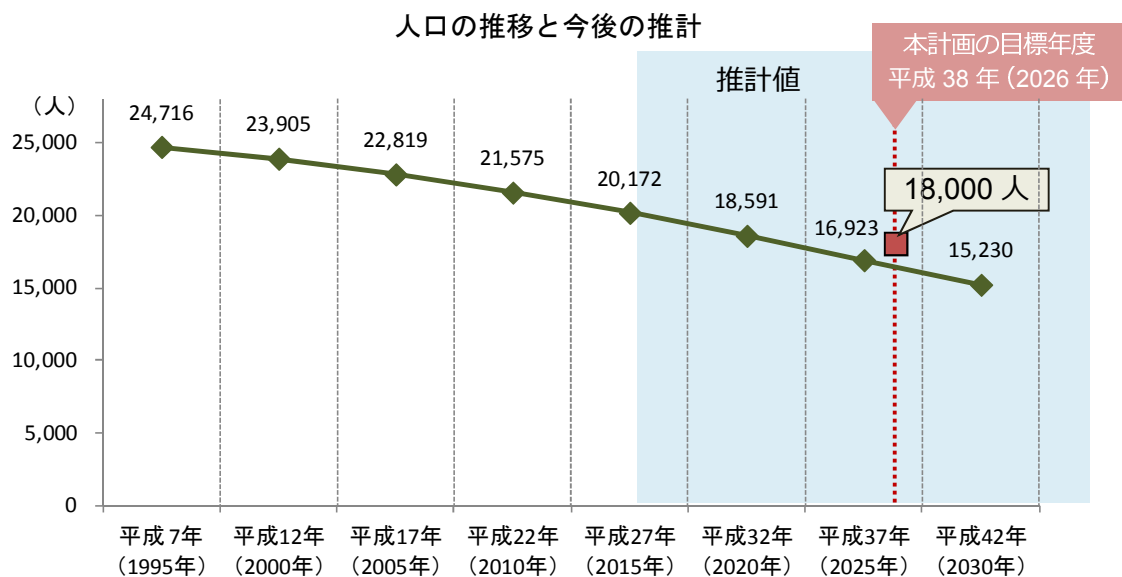
大正 12 年に誕生した美幌町は、人口の増加が続き、一時、若干の減少があったものの、昭和 60 年の国勢調査では、26,686 人となりました。その後は減少に転じ、その傾向が今日まで続いています。

これまでの動向をふまえ、今後の総人口を推計※すると、平成 37 年には 16,923 人、平成 42 年には 15,230 人という推計になります。

この計画では、雇用の拡大・安定や子育て支援の充実、いつまでも住み続けられる生活環境づくりなど、定住につながる取り組みとともに、移住人口を増やす取り組みを積極的に進めることとし、計画最終年次である平成 38 年の目標人口を 18,000 人とします。

また、年齢 3 区分人口については、0～14 歳を 2,050 人、15～64 歳を 9,500 人、65 歳以上を 6,450 人とします。

※過去の国勢調査の実績値（総人口数）をもとに、性別・年齢 5 歳階級別人口ごとに 5 年間の増減率（変化率）を算出し、今後もその率が一定であると仮定し推計する「コーホート変化率法」という推計方法を用いています。ここでは、平成 12 年・17 年・22 年の実績値をもとに、過去 2 回分の変化率を用いて推計しています。



年齢 3 区分別人口の割合

	国勢調査の実績値 (人) ※ ()内は割合				目標年度
	平成 7 年 (1995 年)	平成 12 年 (2000 年)	平成 17 年 (2005 年)	平成 22 年 (2010 年)	平成 38 年 (2026 年)
0～14 歳	4,279 (17.3%)	3,606 (15.1%)	3,031 (13.3%)	2,720 (12.6%)	2,050 (11.4%)
15～64 歳	16,582 (67.1%)	15,564 (65.1%)	14,289 (62.6%)	12,903 (59.8%)	9,500 (52.8%)
65 歳以上	3,847 (15.6%)	4,733 (19.8%)	5,498 (24.1%)	5,950 (27.6%)	6,450 (35.8%)
合計	24,716	23,905	22,819	21,575	18,000

※合計には年齢不詳の人口も含まれていますので、各項目の合計とは一致しません。

3 基本目標

将来像「ひとがつながる、みらいへつなげる ここにしかないまち びほろ」の実現に向けて取り組んでいくための、5つの基本目標を設定します。

それぞれの基本目標でめざす「まちづくり」をイメージするために想いを込めた「漢字1文字」を設定し、基本目標とともに示すこととします。

ひとがつながる、みらいへつなげる ここにしかないまち びほろ

基本目標 1

創

人を創り、地域力を高めるまちづくり

基本目標 2

護

自然の美しさやくらしの安心を、
みんなで護りあうまちづくり

基本目標 3

活

まちの資源や持ち味を、
活力に換えていくまちづくり

基本目標 4

集

住みやすく、
人が集まる基盤をつくるまちづくり

基本目標 5

育

夢を育む体験！
あたたかい人をつくるまちづくり

(1) 基本目標 1 -人を創り、地域力を高めるまちづくり

創

【音】 ソウ

【訓】 つくる、はじめる

【選定理由】

人を創る、和を創る、育を創る、協調性を創る、愛を創る、全てに協調する漢字。

- ・交通事故や犯罪、自然災害などから町民の命や生活を守るとともに、情報網や公共交通手段の利便性を高め、超高齢社会でも便利で安心して生活できる環境を創ります。
- ・若い世代の力や意見を引き出し、自治会力や地域コミュニティの機能を高め、次の世代を担う人や地域を創ります。
- ・性別や年代、立場や職業などに関係なく、美幌町に住む人達が集まったり、交流することができる機会を大切にし、人の輪を創ります。
- ・町民と行政がそれぞれの情報を共有し、知恵を出し合う関係を深め、まちづくりの課題を解決して生き抜く「知恵」と「力」のあるまちを創ります。

(2) 基本目標 2 -自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづくり

護

【音】 ゴ

【訓】 まもる、まもり

【選定理由】

福祉や、環境にもつながる一文字 自然の中で仲良く安心して暮らせるまちをめざすための一文字。

- ・恵まれた自然環境を次代に引き継いでいくために、自然を大切にする意識や取り組みをまち全体に広めるとともに、環境負荷に配慮した廃棄物の処理やリサイクルを進め、美幌町の環境を護ります。
- ・保健・医療・福祉をはじめ、関係機関の連携をより一層深め、町民の心身の健康づくりを積極的に援護します。
- ・子育て家族や高齢者、障がい者など、一人ひとりの立場で異なる不安を取り除き、生活を擁護することで、だれもが安心して暮らせる、人にやさしいまちをつくります。
- ・身近な地域での支え合い、町民主体のボランティア活動などを支援し、世代の枠を超えたつながりにより、孤独になりやすい人達の生活をお互いに護りあえるまちをつくります。

(3) 基本目標 3-まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり

活

【音】 カツ

【訓】 いきる、いかす

【選定理由】

「活性化、活気ある」のほかに「新鮮な」という意味も。また、美幌町に喝（活）を入れたいという気持ちも込めて。

- ・基幹産業である農林業を活かし、次の 10 年を見据えながら産業の裾野を拡大し、経済波及効果や雇用の創出につながる取り組みを積極的に進め、企業が伸びるまちをめざします。
- ・美幌町内で起業したいという人を支援するとともに、美幌町内で働いている人達が、活き活きと楽しく働けるまちをめざします。
- ・日常の買い物環境がより楽しく、便利に感じられる、活気あるまちづくりをめざします。
- ・美しい自然、新鮮な農産物や食、交通の要衝という恵まれた立地など美幌町の特長を観光振興で積極的に活かし、行ってみたいと思われるまちをめざします。
- ・まち全体の創意工夫により、地域資源を活かした特産品の開発や地産地消の推進、来訪者の滞在促進などを進め、地域経済の循環を活発にし、まちの活力につなげます。

(4) 基本目標 4-住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり

集

【音】 シュウ

【訓】 あつまる、つどう

【選定理由】

施設を集約し町をコンパクトにまとめていく。また、人やものが集まり、にぎわいを取り戻す。

- ・交通の利便性やコンパクトシティである強みをさらに高めるため、中長期的な視点を持ちながら、まちなかに人が集まりやすい環境を整え、にぎわいを再生します。
- ・ユニバーサルデザインを取り入れた環境整備を進め、年齢や障がいにかかわらず、誰もが住みやすく、人が集まる基盤をつくれます。
- ・老朽化の進んだ施設や設備については、有効に活用することに努める一方、適切に更新や集約を行い、より管理しやすい体制にしていきます。
- ・身近なところで自然やうるおいを感じられる空間や景観を増やすほか、子ども達が安心して自由に集まれる環境をつくれます。

(5) 基本目標 5 -夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり



【音】イク

【訓】そだつ、そだてる
はぐくむ

【選定理由】

夢を育むチャレンジを大切にしたい。大人と子どもが共に育みあい、温かい人づくりをめざしていく。

- ・子どもの頃から、また、大人になっても、学びや夢を育む体験（チャレンジ）、スポーツ活動、芸術文化活動など豊かな経験を通じて、美幌町を愛する人が育つまちをめざします。
- ・「大人が変われば子どもも変わる」という考え方のもと、子どもへの関心をまち全体で高め、子どもの心身の成長を地域で見守り育てます。
- ・地域での体験や見学、食育などを通じて美幌町の良さを知る教育を大切にし、学びたくなる学校づくりを進めます。
- ・美幌町の自然や歴史、食、産業、施設、豊かな経験を持つ人達などを教育に活かし、子どもからお年寄りまで、楽しく元気に学び活動できる機会を増やします。
- ・学びや活動の成果が個々の生きがいや、次代を担うひとを育てる人づくりを目指します。